

Kiha Chihana
千花キハ

偽りの初夜

ドS軍人と

14

愛らしき声で鳴け



ラブきゅんコミック



別に…
どうでもいらけど

義三は先に
戻ったのか…



いい加減に
しろっ



解せん…



お客さん飲み方が
荒いようですが
大丈夫ですか？

問題ない

もう一杯
くれ

俺のことが好きでは
なかったのか…

まったく
ピアノ男の
何が良いんだ

千代佳は
何を考えているのか
わからない——

ピアノが
なんですって？

あんたは
誰だ

この店で
ピアノを弾いている
者よ

フッ

しかも
ケンカしちゃって
ひとりヤケ酒



なるほど
奥様がピアノ
ばっかりで自分を
見てくれないと…

だいたいあいつが
ピアノなんぞに
うつつを抜かしているのも

あの妙な
男のせいで…

ブリブリ

男の人って
自分の気持ちに
不器用よねえ

はー

ほんと

そうだっ
ピアノ教えて
あげましょうか？

弾けるようになれば
奥様は貴方だけ
見るんじゃない？

…なら
頼む

ってちょっと
ここで寝ない
でよ！



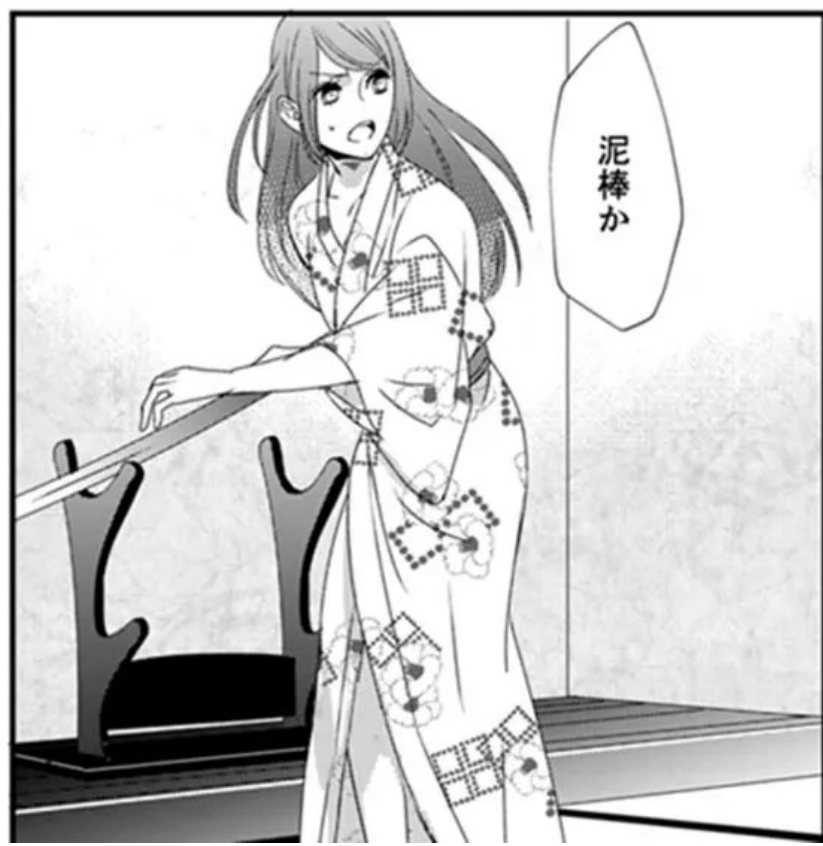


義三はどこ
いったんだ...

いやいや...
何気になってんの

さっさと
寝なくちゃ

自分勝手なやつは
しばらく放って
おけばいいんだ...



泥棒か



なんの音?

庭のほうから
音がしたようない



とっり

勝手回のこころ
何が動いてる



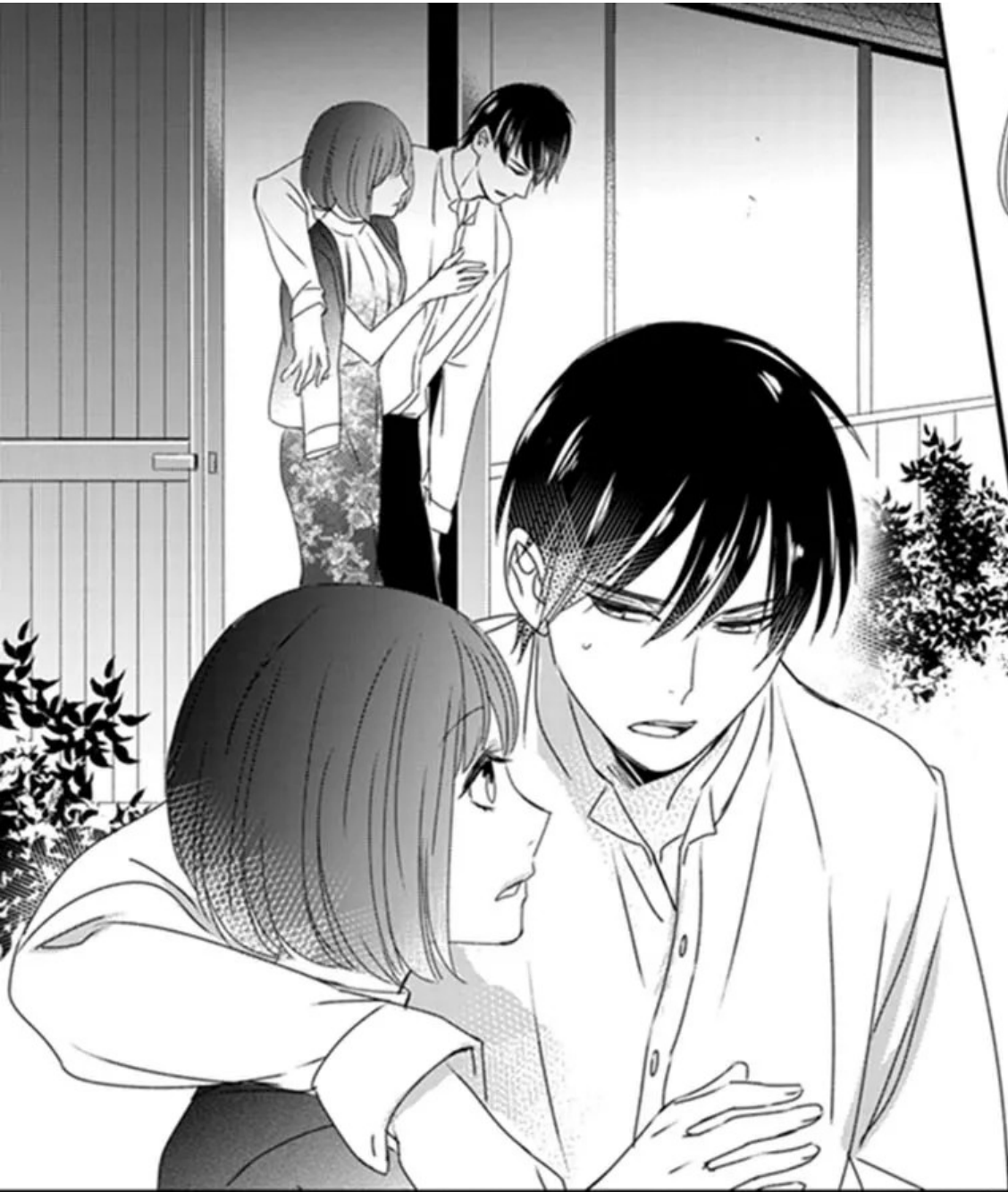
あ
なんだもう
びっくりさせて！

だいたい
夜明け前まで
どこ行って

蔵二様



義三……？



送るのはここで
よかったかしら？

ああ

では
約束どおりの日に
会いに来て
くださいわね

…わかった

今晚
とても楽しかったわ

それじゃ
また

ああ

もしかして
義三…

私のこと

違う人と
過ごしたいって
思うくらい

本当に
呆れた？



なんで
あんたがここにっ



ピアノを習いたい
男性がいるって
聞いて来たんだけど

笹鞍さん
だったとは



あんたが千代佳に
なれなれしいからだ

随分だな…

みたいじゃなくて
嫌っている



今すぐ
帰ってもいいか

なんだか俺は
君に随分嫌われて
いるみたいだな

急用が
できたからって
古河さんにお願
いされてね



俺が
千代佳さんを
そういう目で
見ていると？



思わず
懐かしくなって
しまった

誤解を招くような
接し方をして
悪かったよ

千代佳さんは
俺の昔の知り合いに
似ていてね…

まあ
千代佳さんが
独り身なら
考えたけどね…

冗談さ

なっ

冗談に
聞こえんっ



ところで
ピアノを習いたかったのは
千代佳さんへの
ご機嫌取りのためか？

だったらなんだ

なら
君にピアノは
必要ない

君の声のほうが
喜ぶんじゃないか？

どうい
う意味だ




彼女
とても指輪を
大事にしていた
からな

心配する
必要のないくらい
君のことを
思っているよ

だから
俺と千代佳さんの
仲を疑うことより

もっと
君の気持ちで
応えてあげろ



取られたくない
くらい

大切なんでしょう？

ア、ア、ア、



お帰り
なさいませ

今帰った



いないのか…



千代佳
少しいいか？

カ
ク



千代佳…



これは…

千代佳は
来ていないか？

坂元道場



どこへ行ったんだ



あいつが
行きそうなところ
なんて――





ここは…
千代佳と
来たことがある



このままずっと
降ってくれたら
いいのに



雨…
けっこう降って
きたな



そしたら
帰らなくて
いいし…



義三といたい

なのに――



離れたくない



千代佳



義三が
自分から選んだ人なら
万々歳じゃないか――

もともと私と義三は
お互いの目的で
一緒にいただけ……だし



バカ
離せっ



お前なんか

どっか行け



よし……



いいかつ

よく聞け



今の俺が選ぶのは
千代佳だけだ



俺が

誰よりも何よりも
愛しいと思うのも



千代佳だ



あんたを…

佐伯に取られて
しまうと思った
俺の醜い嫉妬だ



呆れたなんて
言ってすまない…





千代佳...っ

千代佳



なら
こうして
温まれば問題ない

このままじゃ
風邪ひく...っ

だめだ
義三っ





千代佳の
全部で



俺を温めろ





早く休ませて
あげたいけど…

もっと
してほし…

よし…み

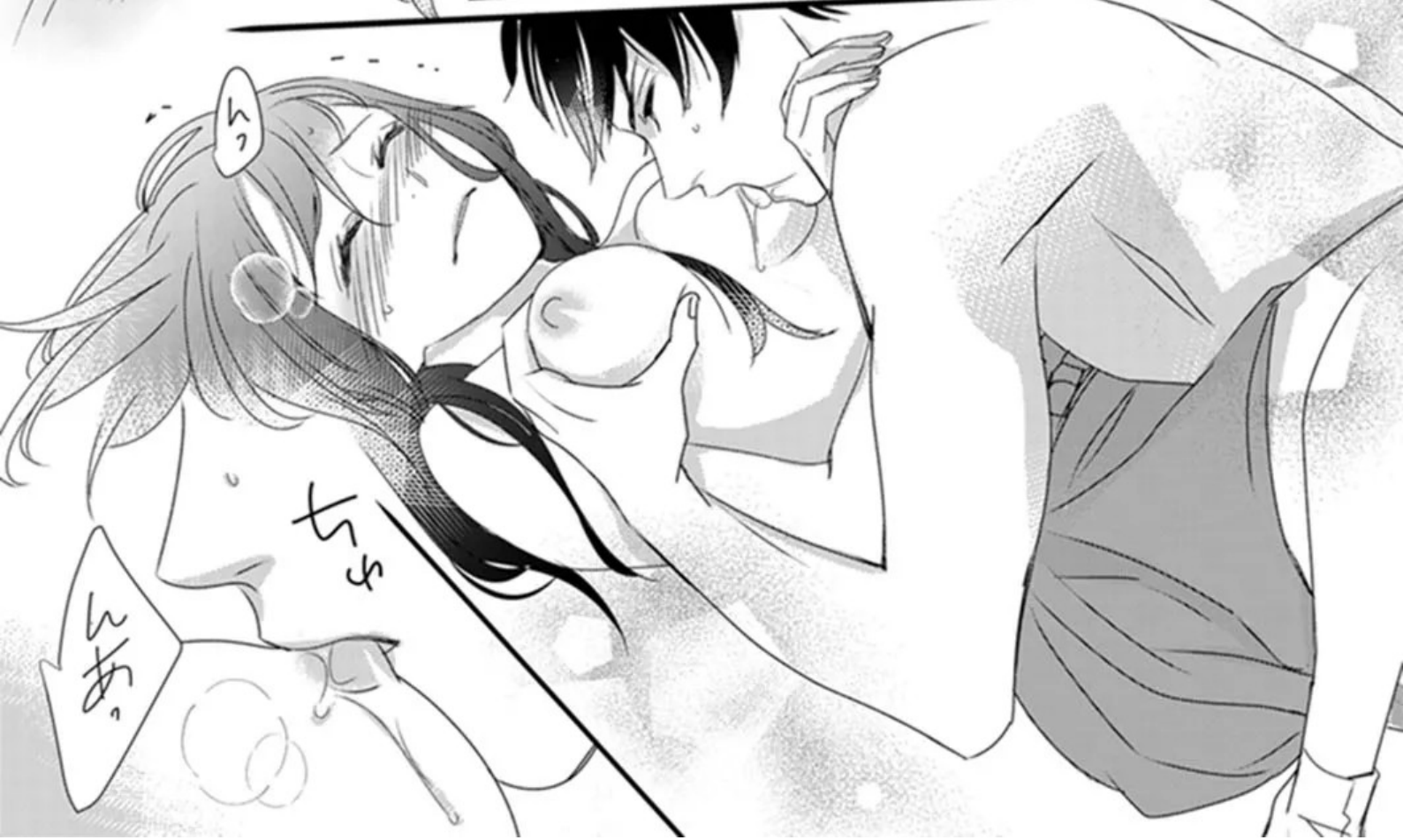
やめたくない

義三の舌
すごく熱い…

やっぱり熱が

ん？

義三をもっと
感じたい





…っすまん
痛かったか？



なんだか
おかしいんだ



うらん
違うんだ



いつもより
感じてしまっ





この距離が
もどかしい

早く
義三に満たされたい



.....

手加減...
できないかも
しれないぞ



義三...
いれて

舌じゃ
いやだ...



酷くするつもりは
ないが

優しく
できなかったら
すまん



俺だけを
その瞳に
映せっ

もっと
聞かせてくれ



あつ

あつ

だめっ

あん

俺のためだけに
鳴いてくれ

千代佳

義三っ
好きっ



あつ

俺もだ
千代佳

ん

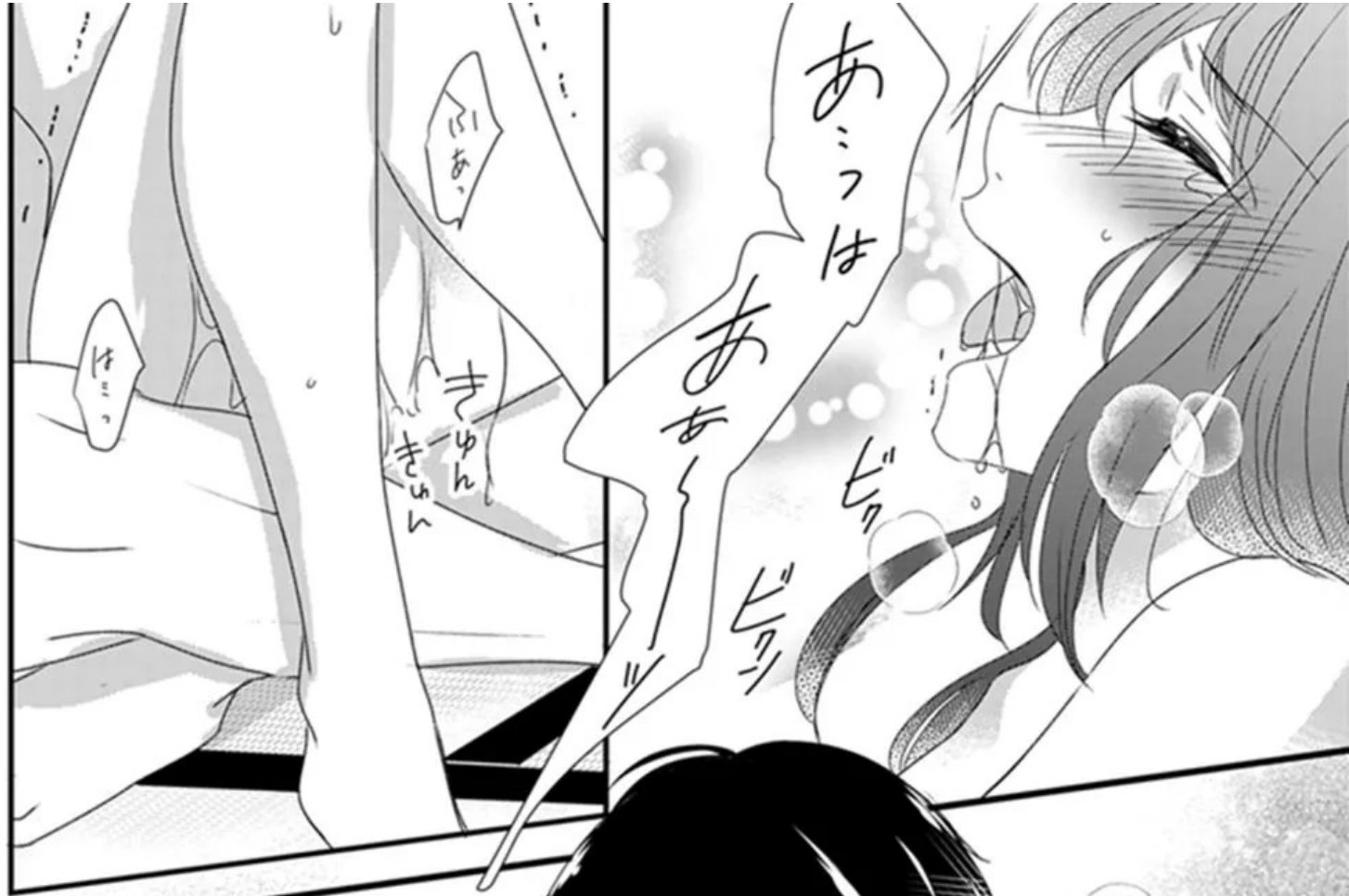
ん

ん

ん

ん

ん



あーっは

あーっ

きゅん

きゅん

きゅん
きゅん

きゅん

は

は

千代佳は俺の

最初で最後の
女だ





To be continued...

ラブきゅんコミック

DS軍人と偽りの初夜 — 愛らしい声で鳴け 14巻

発行日 2017年10月1日

著者 千花キハ

発行 モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、
実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することは
できません。

© 2017 Kiha Chihana

Kiha Chihana
千花キハ

偽りの初夜

ドS軍人と

15

愛らしき声で鳴け



ラブきゅんコミック



あのまま
寝ちゃった
んだな…



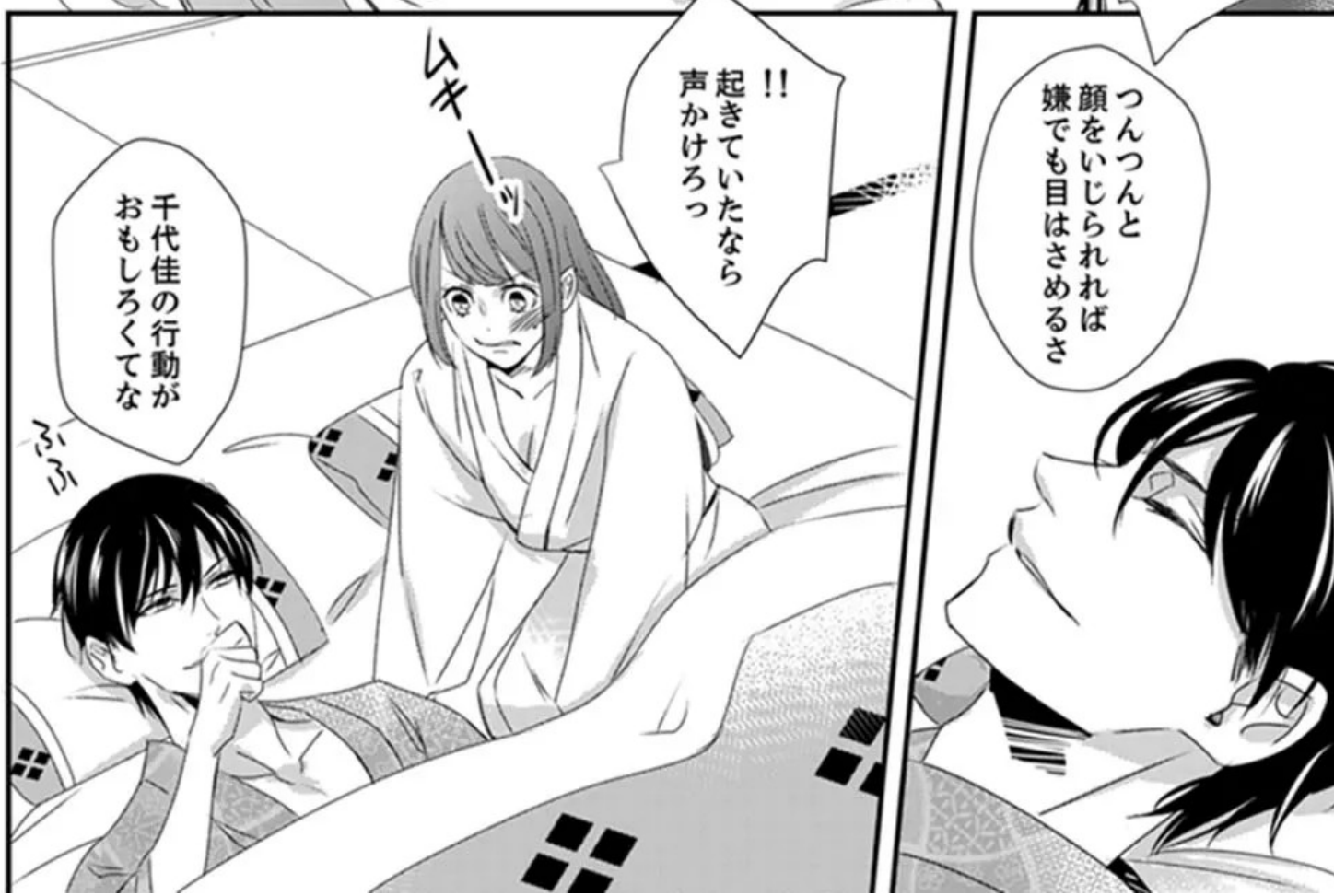
そうだ
義三の熱っ



よかった…
出てない



私
ちゃんと義三に
好きって言って
もらえたんだ…



義三様
起きていらっしやい
ますか？

どうかしたのか

おふたりに
速達のお手紙が
届いてまして

佐伯文士

……

何か
あったのか？

佐伯から旅行の
鉄道切符と小切手が
送られてきた

旅行!?

誤解させて
すまなかったね
今頃は仲直りして
いる頃だと思っけど

君たちはもつと
二人きりで過ごす
時間が必要だと思っけ
これを贈るよ

年上からの
お節介と思っけ
受け取っけほしい

佐伯の奴め……

妙な気を
利かせて





おいつ

こっちの
通りみたいだ

おいつ
千代佳

さっそく
行くぞつ

案内



おいつ

義三との
初めての旅行だから

嬉しくて!

明日も時間が
あるんだ

もっとゆっくり
見廻ってもいいんじゃないか?



千代佳
流石に俺は
カバンがあるから

そうか…
ごめん

気にするな
ゆっくり
見てこい

うん…

せつかく
義三との
旅行なのに

やっぱり
先に宿に荷物
預ければ
よかったな…



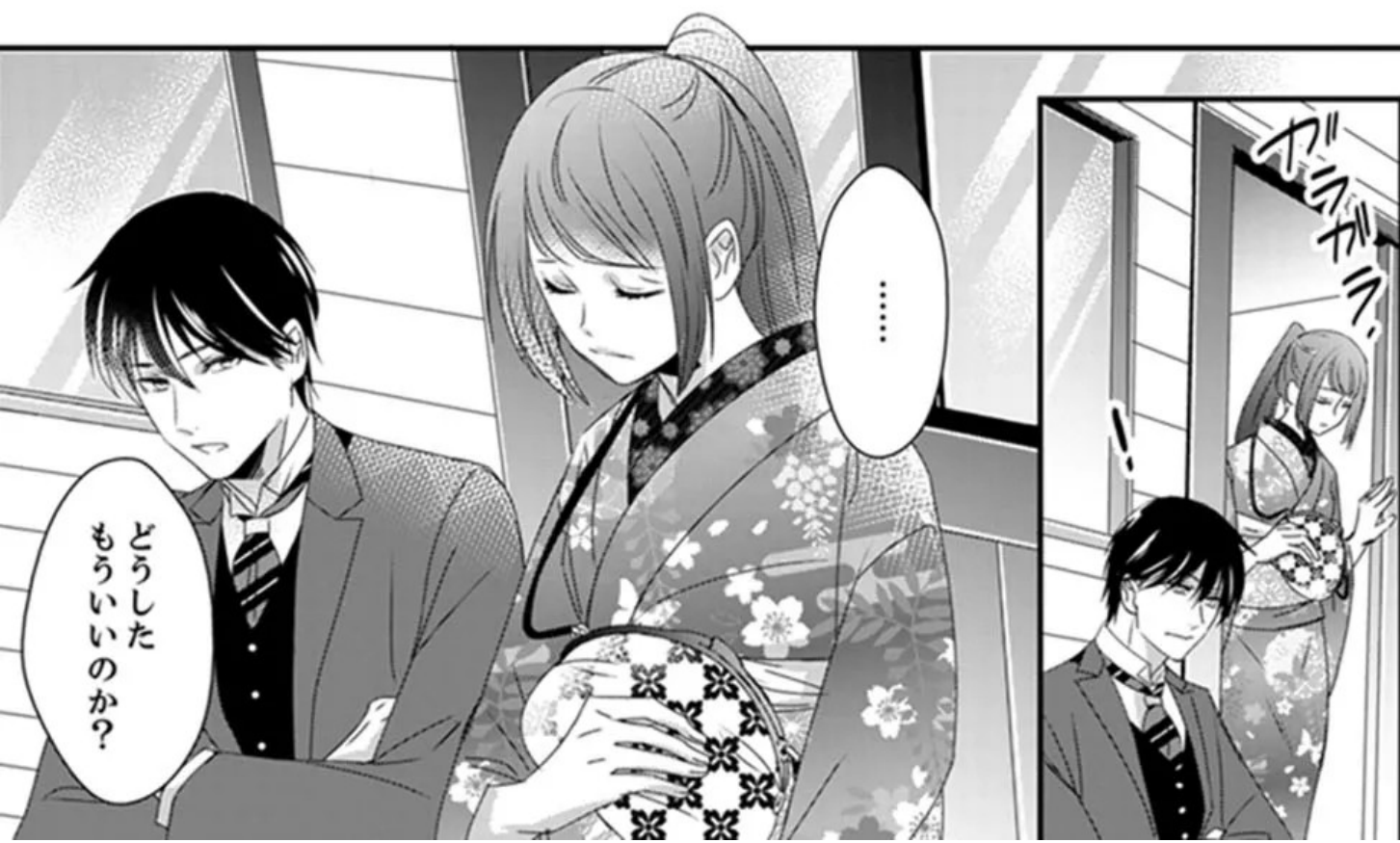
義三と一緒に
使えたら
素敵だろうな

綺麗な
グラス

よしっ
買っちゃおう

ん





財布……
なくしてしまったみたいだ……
佐伯さんからの小切手も
入ってたのに

私が浮かれ
すぎたせいだ……

すまない……

行くぞ

行くって
どこへ

宿へ行って
事情を説明すれば
なんとかなるだろ

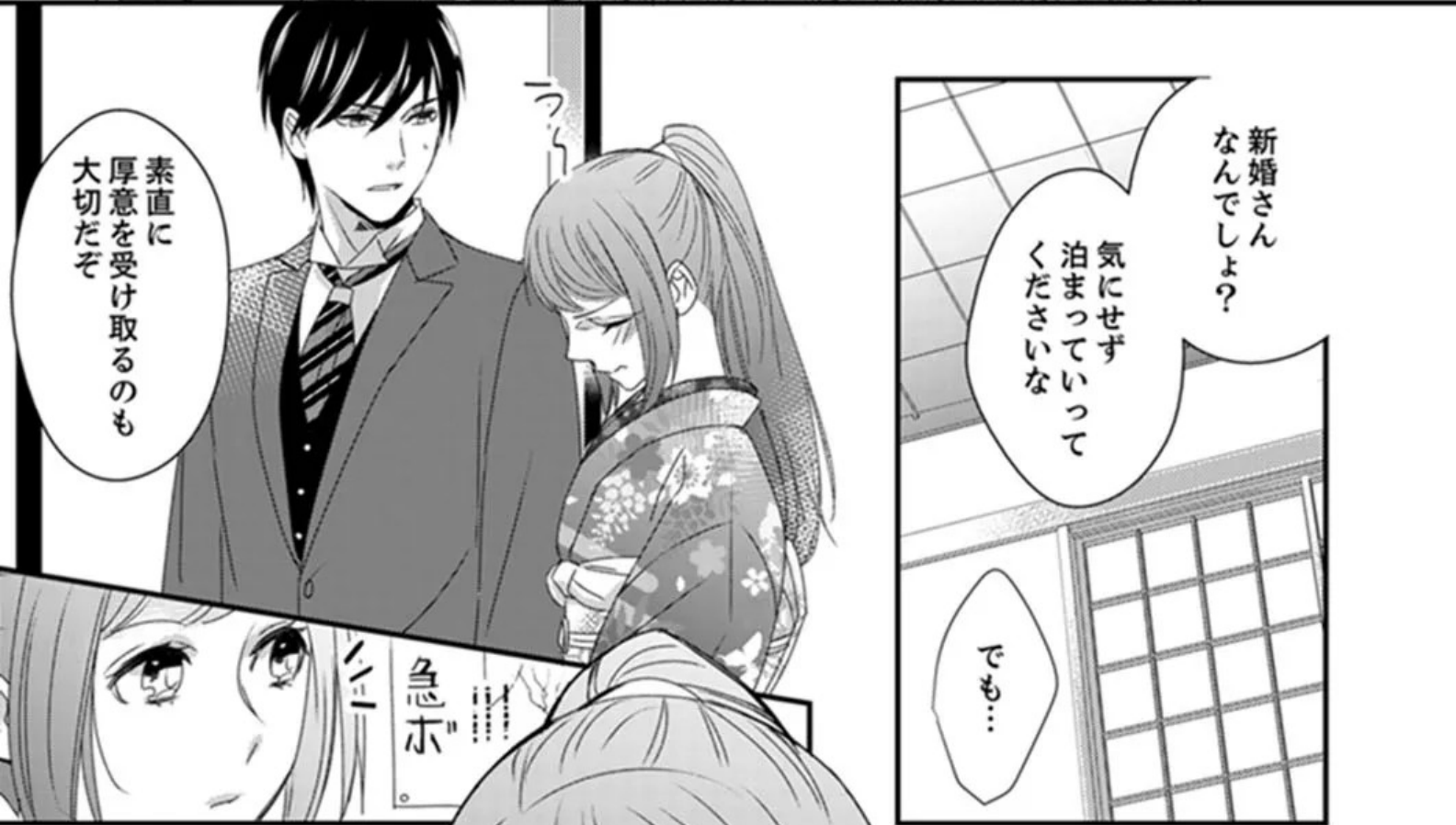
でも

せっかくの
新婚旅行だろ

消えたのが
あんたじゃなくて
財布でよかった

新婚旅行……

つい義三の態度に
嬉しくなって
しまう





どこか
おかしいか？

義三ーっ
準備できたか？

ああ
今行く



ああ

いつもの感じと
違って見えて
びっくりした！

それじゃ私は
台所で膳と仕出しを
手伝ってくるから

義三は
客の案内と
庭の見廻りだな



いや
大丈夫だ

行くぞ

？



千代佳もな



頑張れよ





では：
お部屋まで
ご案内いたします



ちよつとだけ
覗いてみるか…



な：
なんか上手く
やってるみたい
だな



荷物
お持ちいたし
ましようか

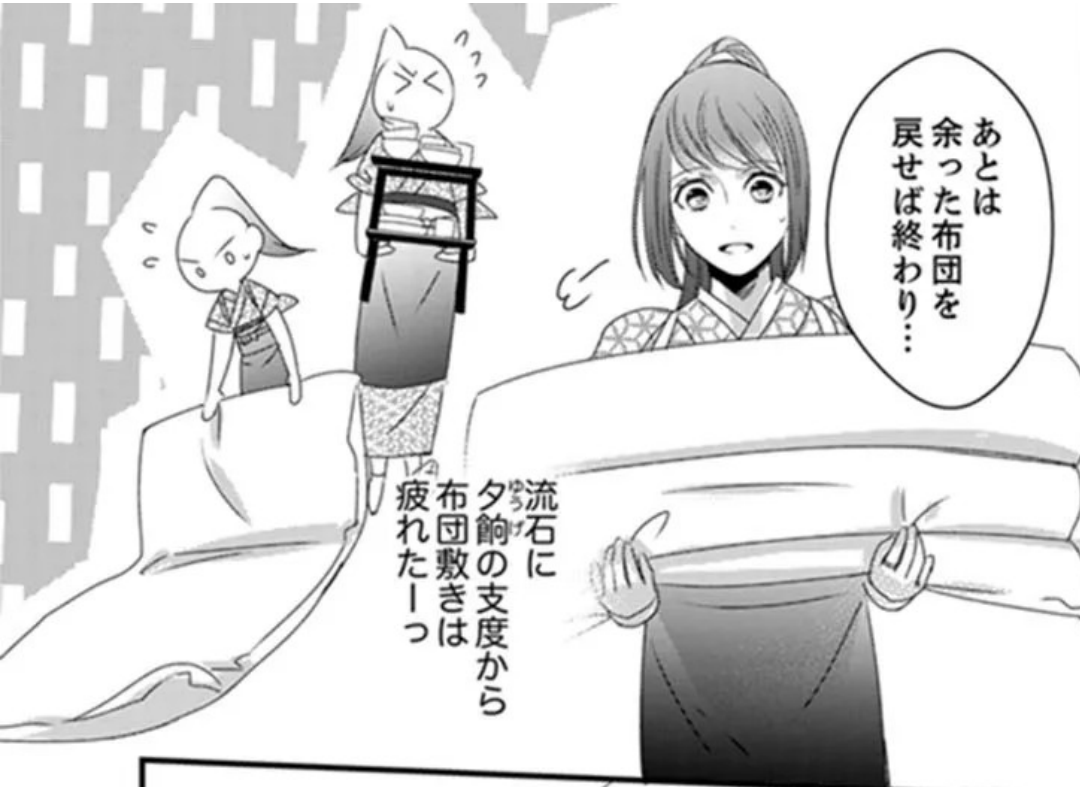
お願いしますっ



ただの
接客なんだし…

愛想がいいのは
いいことじゃないか



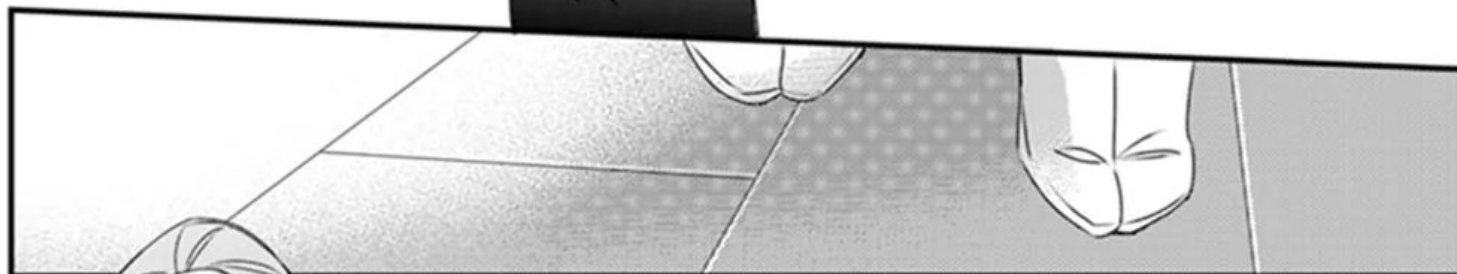


あとは
余った布団を
戻せば終わり…

流石に
夕餉の支度から
布団敷きは
疲れたーっ



いちいち
気にするなんて
みっともないぞ私



気にしたく
ないのに…



饅頭？

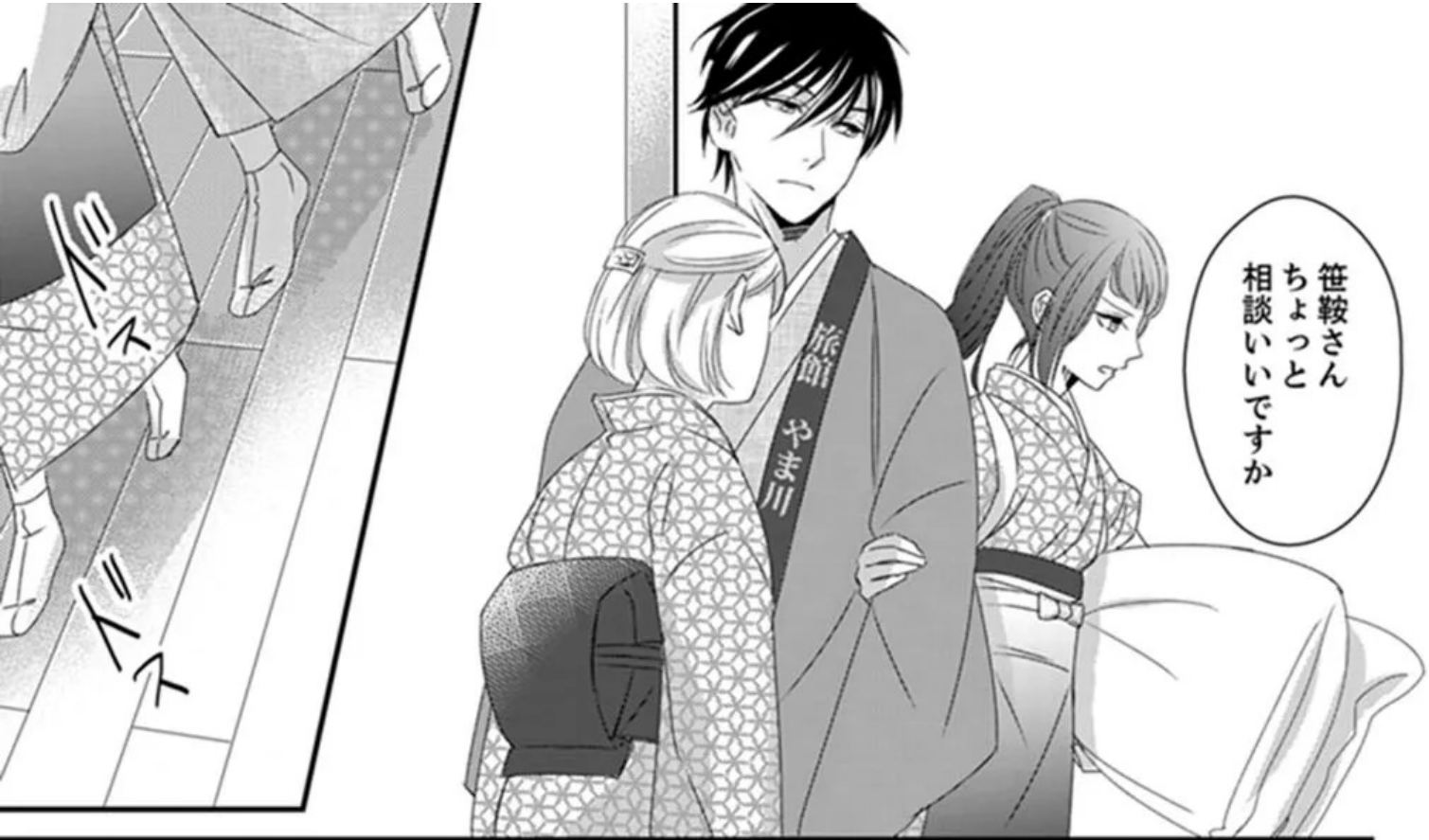
ここで土産用に
売ってる温泉饅頭
なんです

美味しい
ですよ



笹鞍さん

これ…
よかったら
食べてください



笹鞍さん
ちよつと
相談いいですか



千代…佳っ?



どうした

...



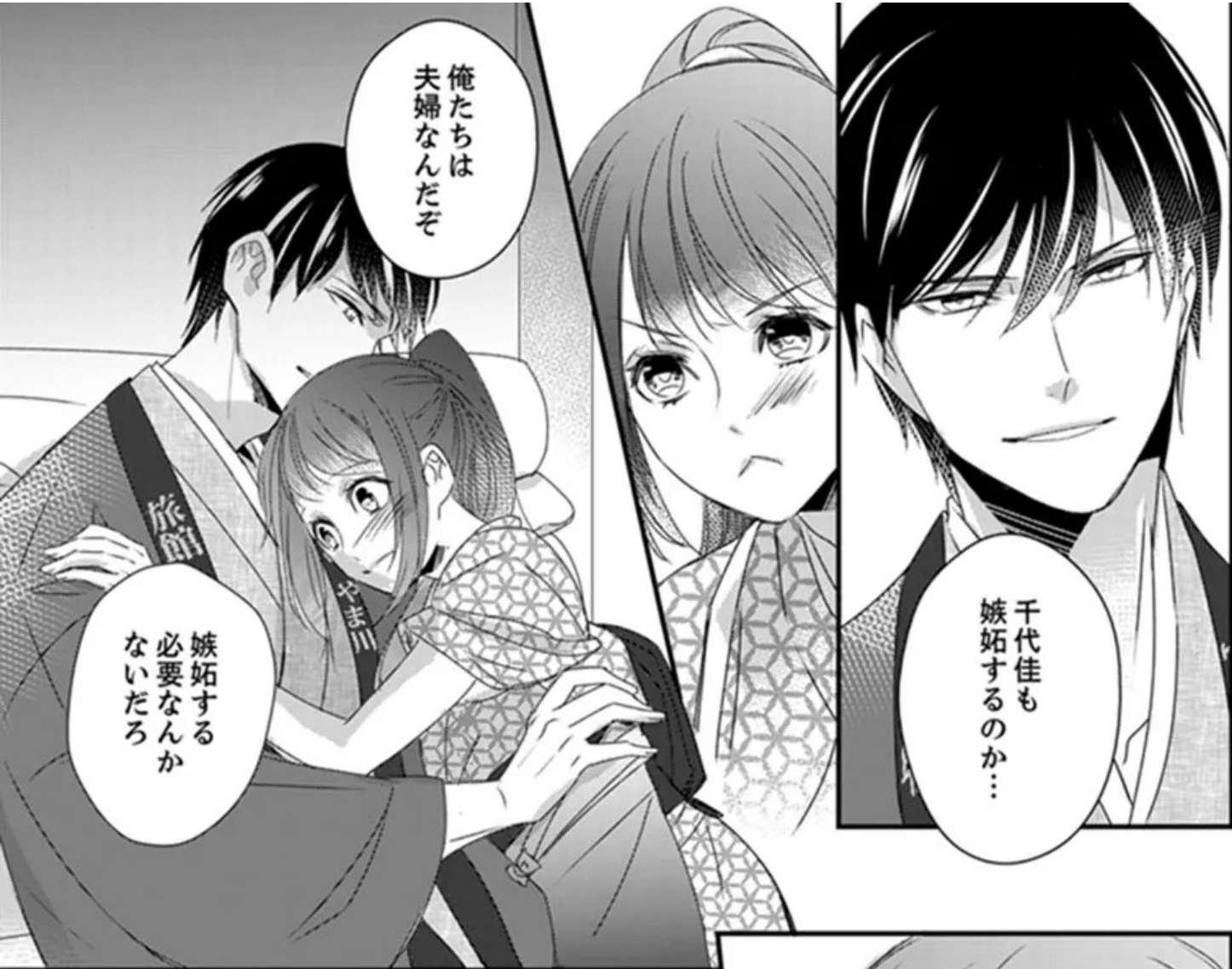
義三が他の女の人と喋ったり

色目...みたいなの使われてるのが嫌...なんだ

こんなの みっともないし

恰好悪いって思うのに

他の...人と話さないで...



俺たちは
夫婦なんだぞ

嫉妬する
必要なんか
ないだろ

千代佳も
嫉妬するのか…



嫌なもの
は嫌なんだっ

千代佳の
こんな可愛い顔が
見られるなら

ずっとここで
働くのもいいかもな

なっ
何言っ
て

嫉妬で不安に
なってるあんたを

安心させて
やらないとな

あつ
ここじゃ…
もし誰か来たらっ

もうみんな
寝てるだろ

でも

ふ。

しし

しし

ほ

あ

し

ほ



誰かに
聞かれてたって
かまわんさ

でせう

あ...

夫婦のする
ことだ



ヒッ

ヒッ

シッ

シッ

ん

ん



義三の舌と
髪が…あたって…

もどかしい



溶けきっているな…

俺の舌でそうなるの

可愛い



ばかっ

声：
外に漏れているかも
しれないって
思うのに

声
抑えるな



そんなこと
言われたら

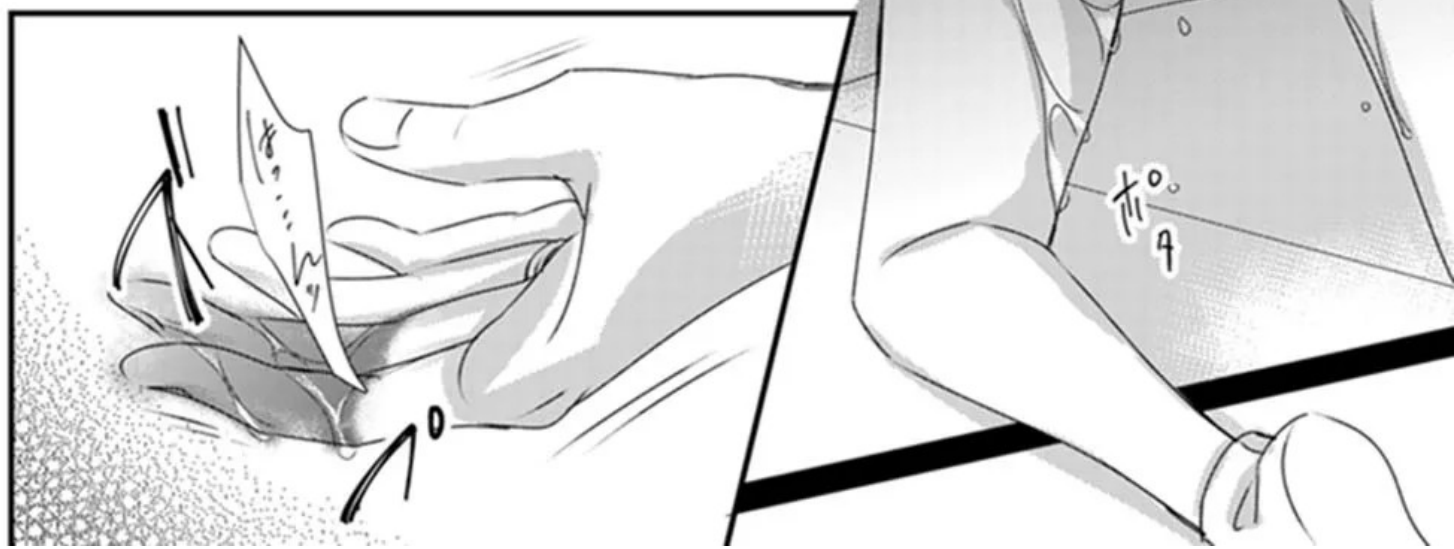


俺にしか
きこえてない



あ、あ

我慢なんて
できなくなる





家じゃないからか

いつもより
トロトロだな

どんどん
溢れてくる

んちんちん

…だって
気持ちいい所に
あたって…



溶け合って
しまいたい

義三…
まだ

足りない…ッ

どっちの熱か
わからないくらい



なか...

入るぞ

グッ
グッ

グッ

グッ

グッ



どうだ...っ
足りてるか?

千代佳の
欲しい所に
届いているか?

はっ

は

は

千代佳の
果てる顔が
もっと見たい

あつ義三

もっと
強くして…

壊れそうなくらい
激しいのに

義三の
一途な気持ちが
流れてくるみたいで



嬉しい

ぜっ
つた
い
離
し
た
く
な
い

三日後——

帰る前
にお財
布見
つ
か
っ
た
わ
ね
本
当
に
よ
か
っ
た
わ
ね

はい：
駅の忘
れ物
あ
っ
た
保
管
庫
に
あ
っ
た
み
た
い
で

無事
に
見
つ
か
っ
た
こ
と
だ
し

せ
っ
か
く
だ
ら
数
日
ゆ
っ
く
り
泊
ま
っ
て
い
っ
て



今度ゆつくり
泊まりにお邪魔
します



そうしたいのは
やまやまなんです
がすみません…

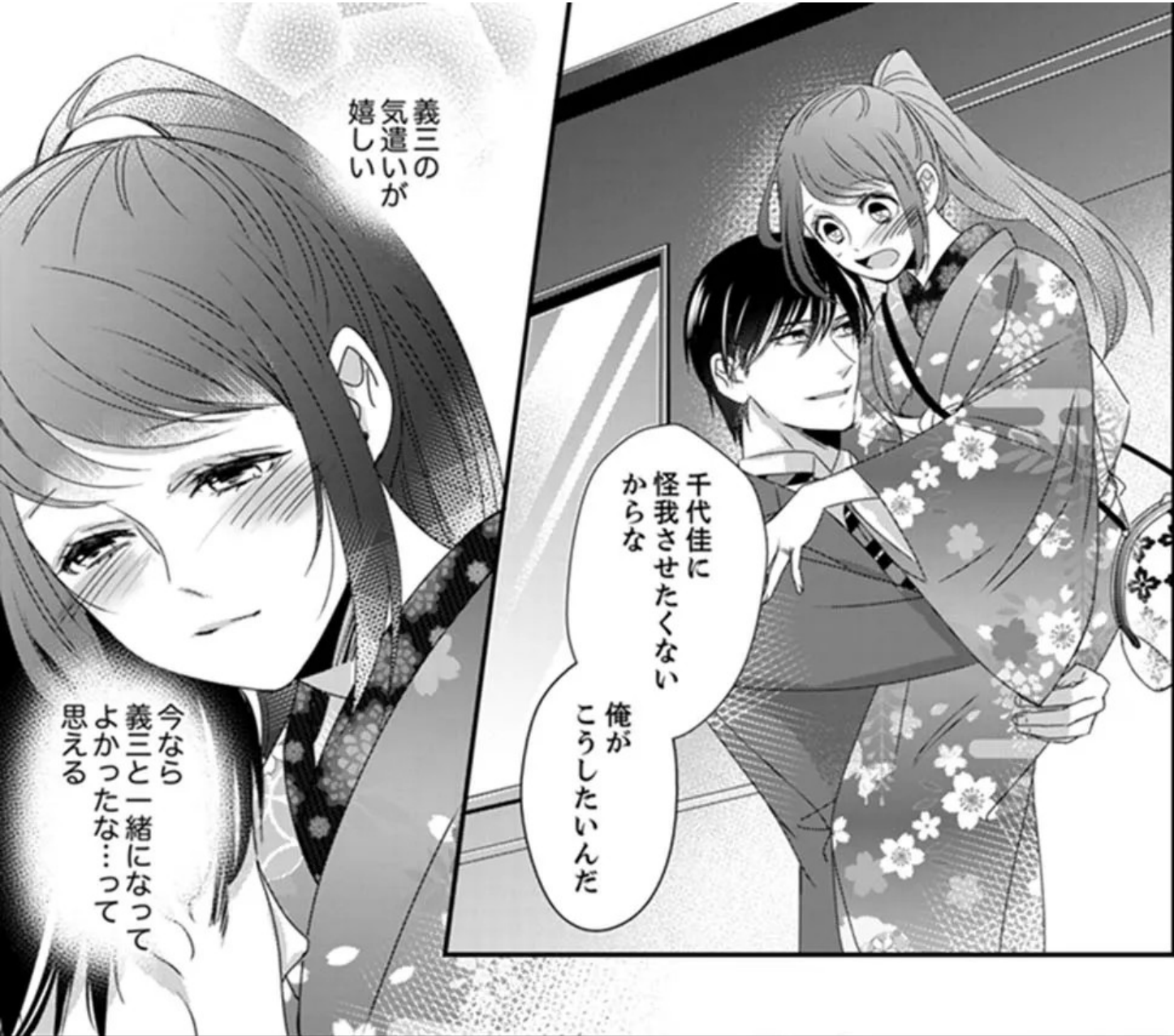


恥ずかしいし
大丈夫だ



千代佳
着いたぞ

手ほら



義三の
気遣いが
嬉しいが

千代佳に
怪我させたくない
からな

俺が
こうしたいんだ

今なら
義三と一緒に
よかったな…って
思える



却下

なあ
もうすぐ
家に着くし
そろそろ…

手



俺に？

笹鞍義三さん宛てに書留です

あ、お家の方ですか？

丁度よかったです

辞令ノ報セ
笹鞍 義三 殿
昇級ト国外へノ異動

義三？



To be continued...

ラブきゅんコミック

DS軍人と偽りの初夜 — 愛らしい声で鳴け 15巻

発行日 2017年12月1日

著者 千花キハ

発行 モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、
実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することは
できません。

© 2017 Kiha Chihana

Kiha Chihana
千花キハ

偽りの初夜

ドS軍人と

16

愛らしき声で鳴け



ラブきゅんコミック







以前の自分なら
ためらいなく
行くだろう

もし行けば
5年は日本へ
戻れないかもしれない



昇級には
ロシアへの
赴任…



千代佳は
どうする…



ア



おつ 笹鞍
待ったつたぞ

笹鞍です
失礼します

コソ
コソ
コソ

昇級の件
本日中にも受理
するからここに
署名を頼む

はちま
八幡さん
昇級について
なのですが

ん？



ロシア行き
の件
延期させて
頂きたく





いやーっ
あの子か

そうかそうか
君も妻を想う一端の
男になったと
いうことか



ほう…



俺が…

それをさせたく
ないのです

千代佳に
不安を
与えたくない

申し訳
ありません



実は
君の昇級を一番に
推しているのが
白鳥大佐だ

!



…延期を了承して
やりたい気持ちも
あるんだが

今回はワシの一存で
決めることができるの
だよ…



どうしてもと
いうのなら
白鳥さんに直接
交渉するしか
ないぞ



もしかしたら
義三は…

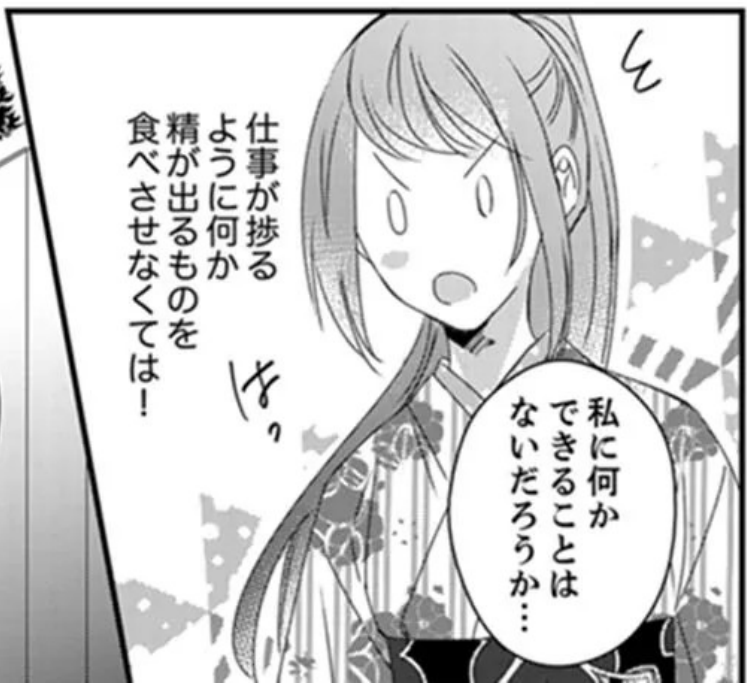
重要な仕事を
任されたのかも
しれない



届いた手紙を
ずっと食い入る
ように見ていたし…



よーし
夕餉は肉だ！



仕事が捗る
ように何か
精が出るものを
食べさせなくては！

私に何か
できることは
ないだろうか…



今朝
通達が書留で
届いて
もうびっくりで

ええ

旦那さんが
昇級!

あいよっ

この牛肉を
三人前ください



しかも
海外赴任
すること
になってしまっ
て…

急なことで
私どうしたら…



牛肉三人前
お待ちっ

まいどーっ



どちらへ
行かれるの?

詳しくは
わからないの
だけれど…

今夜はお祝い
ですわね!

まあ!
海外なんて
素敵っ



海外への…

もしかしたら
義三に届いた手紙も



いま
帰った

義三っ

カ
ラ

おかえりっ

今晚は
スキヤキだぞ！

ほや

ほや

何か
あったのか？

今夜は
また豪勢だな…



もしかしたら
義三に来た手紙も…

そうだ

ロシアへの
赴任だ

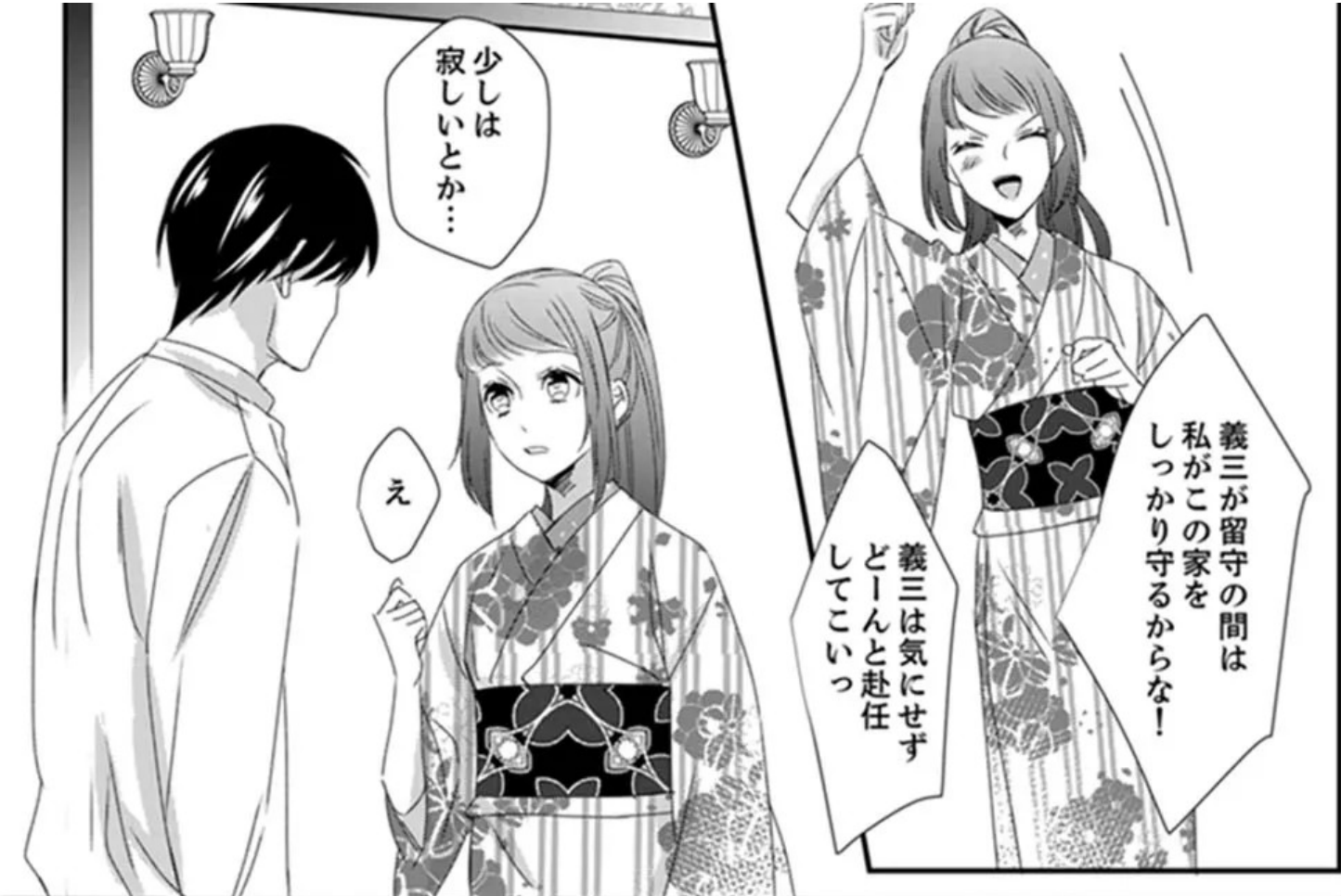
いいものかっ

赴任すれば
数年は戻って
これない
それにあんたを
置いていくなんて
そんなこと

ロシア？

よかった
じゃないかっ

安心しろ！

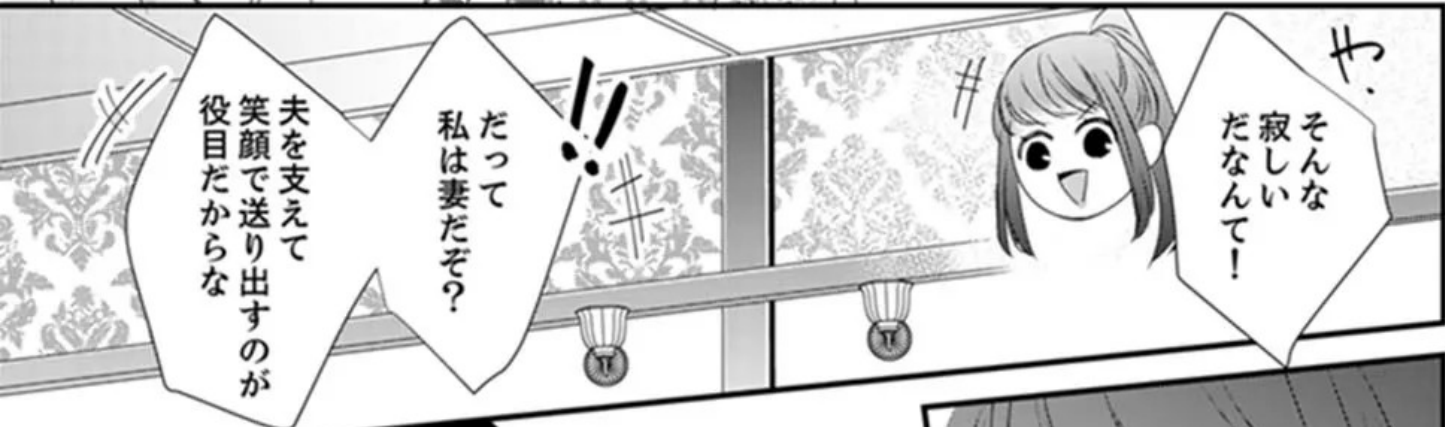


少しは
寂しいとか…

え

義三は気にせず
どーんと赴任
してこいっ

義三が留守の間は
私がこの家を
しっかり守るからな！



や.
そんな
寂しい
だなんて！

!!

だって
私は妻だぞ？

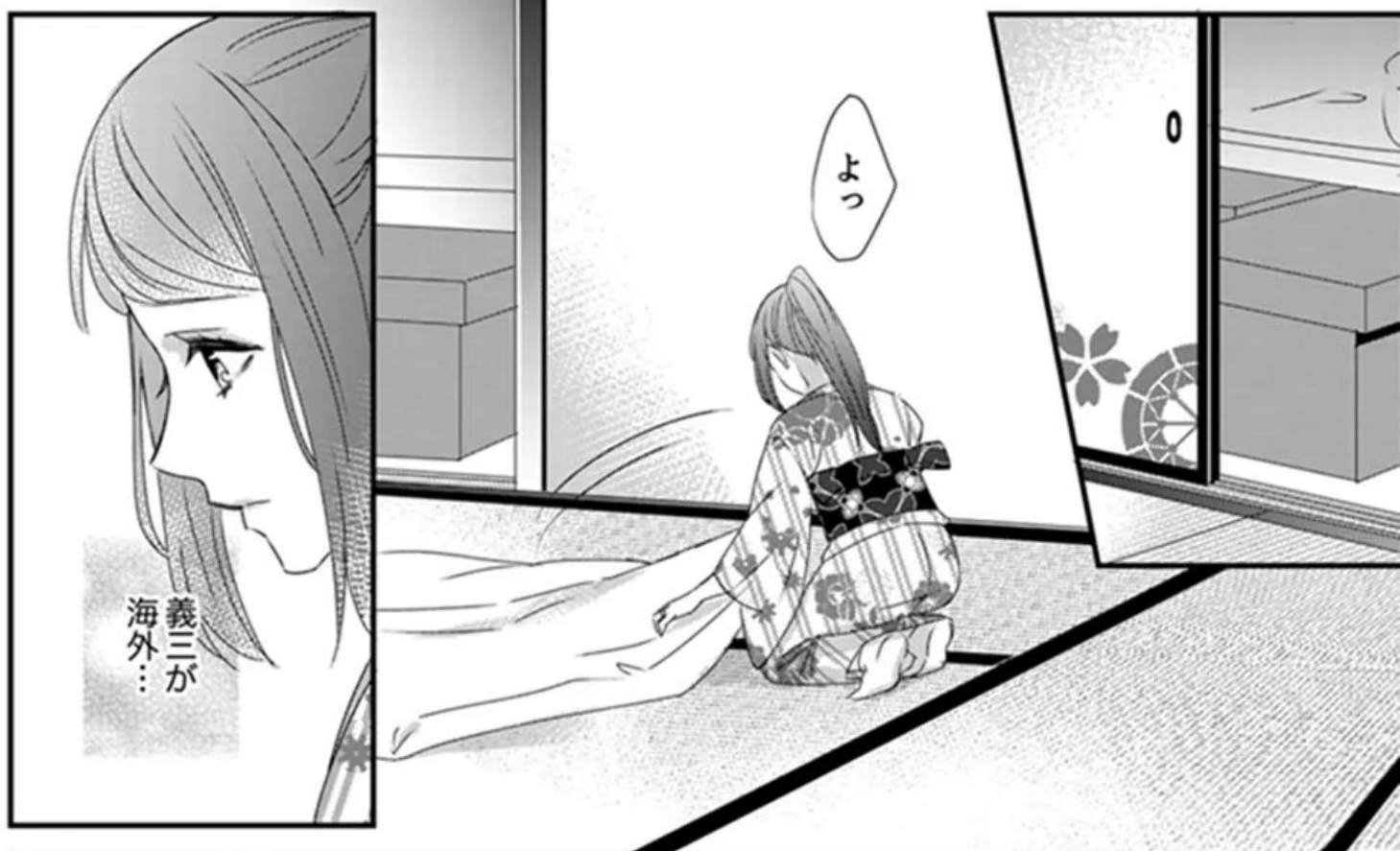
夫を支えて
笑顔で送り出すのが
役目だからな



おい
千代佳

……

義三
そろそろ風呂
入るよなっ
お湯
沸かしてくる



義三が
海外：

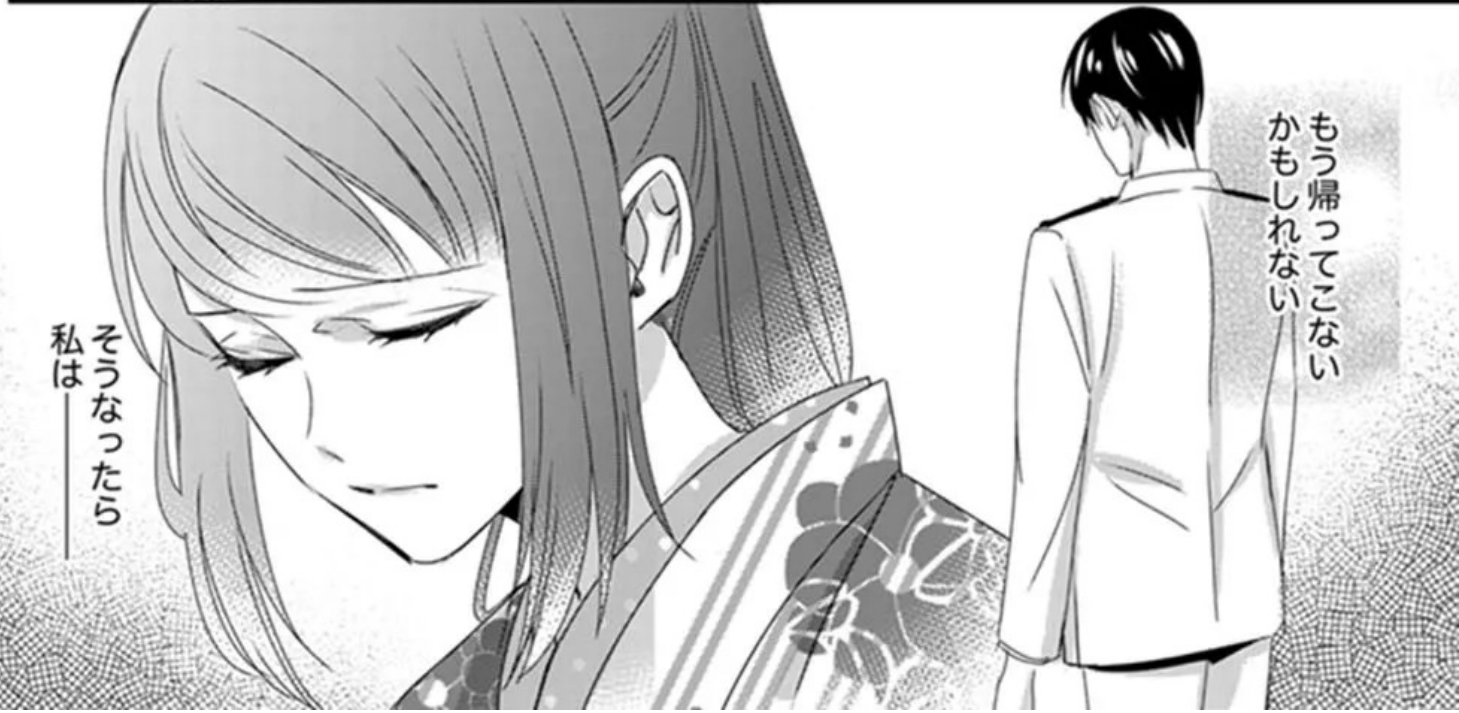
よっ



ロシアって
どこだろう

数年は帰って
これないって
言ってたけど

義三のことだから
そのままどんどん
出世すれば



もう帰ってこない
かもしれない

そうになったら
私は





見せて
みる

本当に
ホコリが
目につ

なんて
顔を
している

もっと
素直
になれ

俺の妻は
時々頑固で
いじっぱりなところが
あるからな



俺だって
お前の
夫なんだぞ


遠慮なんか
するな




やめろ
義三…っ

やっ






あんなが
俺に抱かされている時



どんなに
素直で綺麗か



俺を欲している
姿を



千代佳も
すっかり
見ている



俺の妻は
とにかく
胸が敏感で

あっ



っ
ばかっ
いちいち
言葉にするなっ



こうやって
摘んだり
吸われたりするの
がいいんだよな



恥ずかしいと
言いながら

本当のことだろうか？

見てみる

ずいぶん
濡れている



千代佳の蜜が
こんなに
絡みついてくる

義三の指に
こんなに…



千代佳の体は
こんなに
素直なのに

言葉は
ちっとも
素直じゃない

もっと
俺に素直に
甘えろ



あんたが思っている
ことを知りたい

義三の昇級は
嬉しい

だけど
離れ離れに
なるのは…嫌だ

でも
義三が好きだから
邪魔をしたくない…

言えないっ
私…義三を
困らせたくない



あんたは
本当に…



見栄っ張りだ

あっ

うん



強情だが

そこが
千代佳らしくも
あって

気に入ってる

にゅる

30



義三……っ



千代佳

見えるか？

ぐり

ぐり

70



私の中に
義三の
が

...みえる

俺とひとつに
なっっているのが

あー
あー

フッ

フッ

ズッ

ズッ



いっ
言うなっ

締め付けが
強くなったぞ

俺の妻は
本当にいやらしいな

は

は



航空艦隊所属
笹鞍義三参りました

まあまあ
そう固くならず

此処に来て
座りたまえ

はっ
失礼いたします

八幡から
聞いたぞ

昇級の件
延期させてほしい
らしいな

ありがたい話だと
思っているのですが

今日本を
離れるつもりは
ありません

なるほど：
出世するために
一緒になった娘が

今じゃそれを
躊躇させる存在か

大方日本に
置いていくのも
ロシアに連れて
行くことも
心配なのだろう

だが妻ごときで
出世できる機会を
先延ばしなど
笑い話にもならんぞ

笹鞍はこれから
海軍を担うために
必要な存在だ

できるだけ
早くロシアへ
行ってもらいたい

延期は無理：
というわけで
しょうか



お前が
軍を離れるのは
許さん



何度も
言わせるな
笹鞍よ

置いていくことが
できないなら
連れて行けば
いいだろう



失礼します
お茶を
お持ちしました



遅くなって
すみません

お話中でしたから
なんだか入り辛くって



実鈴と
申します

妻が
ロシア人でな

私の娘だ
髪の色にびっくり
しただろう



.....

はじめまして
笹鞍といいます



To be continued...

ラブきゅんコミック

ドS軍人と偽りの初夜 — 愛らしい声で鳴け 16巻

発行日 2018年2月1日

著者 千花キハ

発行 モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、
実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することは
できません。

© 2018 Kiha Chihana

eBOOKで
快適読書生活



<http://www.ebookjapan.jp>

Digital Distributor
eBOOK Initiative Japan Co., Ltd.
<http://www.ebookjapan.jp>
